

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 核ごみを増やすべきではない	7月末、核ごみ最終処分場の科学的特性マップが公表されました。下北半島太平洋側から三陸沿岸、我が女川町のある牡鹿半島も含まれます。
	処分の難しい核ごみ、原発の高レベル放射性廃棄物を増やすべきではないと考えますが、町長の見解を伺います。
	(質問の相手：町長)
2 障がい者と向き合う地域の理解を	本町が進める小中一貫校は、映画「みんなの学校」で見られたように、障がいを持った子どもも、みんなの中で共に助け合って成長するという取り組みと聞きました。
	私の周りにも、発達障がいや精神障がいを持った人は数多くいます。しかし、学校や施設の中では理解が進んでも、受け皿となる地域の理解がないと暮らしにくい。また、お互いどのように向き合ったら良いのか、障がい者も地域も迷っている、わからないことが多いように思われます。
	障がいを持った人たちが当たり前のように地域で暮らすためにも、お互いの垣根を取り払い、地域の理解を深める必要があると考えます。そのためにも理解を

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
3 水辺の安全対策を	促す取り組みを日常の中に講ずるべきと考えますが、いかがですか。
	(質問の相手：町長・教育長・担当課長)
	干潮時、岸壁にある梯子が着水していない。このような状態を何度か見ました。江島では、「この梯子は、爪先しかかけられないので危ない」とも言われました。
	女川の河口からの、一見緩やかで安全そうな護岸にも危険は潜んでいます。
	水難学会という組織もあります。事故が起こってからではなく、知恵を集めて、水辺の安全対策を図ってはいかがでしょうか。
	(質問の相手：町長・担当課長)